

1 健全化判断比率

単位：％

年度	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
H 2 2	— (14.72)	— (19.72)	15.5 (25.0)	164.1 (350.0)
H 2 1	— (14.84)	— (19.84)	16.5 (25.0)	228.8 (350.0)

※備考 括弧内は早期健全化基準

(1) 実質赤字比率

一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すものです。

平成22年度の金ヶ崎町一般会計の実質収支は220,991千円で、実質赤字比率は生じませんでした。

(2) 連結実質赤字比率

一般会計に公営企業、その他の特別会計の赤字や黒字を合算したうえで町全体としての赤字の程度を指標化し、全体の財政運営の深刻度を示すものです。

平成22年度の金ヶ崎町の全会計の実質収支は335,082千円で、連結実質赤字比率は生じませんでした。

(3) 実質公債費比率

一般会計が負担する元利償還金や一部事務組合、債務負担行為に基づく支出等のうち公債費に準ずる支出等の借入金返済額に特別会計等の借入金返済額に対する一般会計負担額を合算したうえで、その負担の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです。

平成22年度は普通交付税や臨時財政対策債が増えたため標準財政規模が増加したことにより15.5％で、前年度比△1.0ポイントとなり昨年度に引き続き18％未満をクリアしている状況ですが、借り換え債の支払いが今後開始されることや公営企業への繰出金が高止まりしていることから、今後は下表のとおり18％前後で推移する見込みであり、まだ楽観はできない状況にあります。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
実質公債費比率（単年度）	17.7%	18.5%	17.5%	16.9%	17.1%	16.6%	16.0%
実質公債費比率（3ヶ年度の平均）	15.5%	16.1%	17.4%	17.9%	17.6%	17.2%	16.9%

(4) 将来負担比率

一般会計の借入残高、特別会計等の借入残高や一部組合や第三セクター等の借入残高に対する一般会計負担見込み額など、各負債に対して一般会計が将来負担する可能性のある額の大きさを指標化し、将来の財政の圧迫度を示すものです。

平成22年度は起債残高の減少や、土地開発公社の負債の解消、基金残高の増、標準財政規模の増加等により164.1%で、前年度比△64.7%となり、大きく改善しました。しかし、県内市町村の標準財政規模が増加傾向であったことにより、将来負担比率の県内平均は100.0%を下回ってくることが予想されるため、引き続き気を緩めずに改善に努めていく必要があります。

2 資金不足比率

会計の名称	資金不足比率(%)	備 考
金ヶ崎町水道事業会計	—	経営健全化基準 20.0%
金ヶ崎町下水道事業特別会計	—	
金ヶ崎町農業集落排水事業特別会計	—	
金ヶ崎町浄化槽事業特別会計	—	

公営企業の資金不足を、料金収入の規模と比較のうえ指標化し、経営状況の深刻度を示すものです。

平成22年度もすべての公営企業で資金不足比率は生じませんが、上記のうち、水道会計を除く特別会計については、一般会計からの繰入金で収支が保たれている状況であるため、繰入金が少ないような経営努力が課題となります。